



プリローダ

第 71 号
(NPO 第18号)



【ПРИРОДА】プリローダ=ロシア語で“自然”という意味をあらわす

発行：令和3年1月30日

むさしの・多摩・ハバロフスク協会は、東京都武蔵野市で生まれた、「寒帯林保全」、「自然体験活動」、「国際交流」などを行う NPO 法人です。

2021年、当協会は設立25周年を迎えます！

1996年設立後、2008年に特定非営利活動法人として認証され、一貫して「寒帯林保全」「自然体験活動」「国際交流」を3本柱として活動してきた当協会です。2021年は記念すべき25周年を迎えますが、残念ながら毎年恒例のハバロフスクにおける植林活動は例年のように5月には実施できそうにありません。しかしながら、現地の太平洋国立大学自然利用・環境学部と共催で“環境WEB会議”だけは開催したいと考えています。

秋以降の植林事業実施については世界の状況を鑑み、緑の募金と相談しながら検討をして参ります。

祝 イワンチェンコ学長 叙勲

植林事業や大学生交流事業でお世話になっている太平洋国立大学のセルゲイ・N・イワンチェンコ学長におかれましては、令和2（2020）年秋の外国人叙勲で旭日中綬章を受章されました。功労概要は「日本・ロシア間の学术交流及び相互理解の促進に寄与」とあります。当協会の活動にも理解を示されて、多大なるご協力を頂きましたので、心からのお祝いを申し上げます。



2012年ハバロフスク平和慰霊公園におけるサクラの記念植樹
(中央で苗木を抱えているのがイワンチェンコ学長)

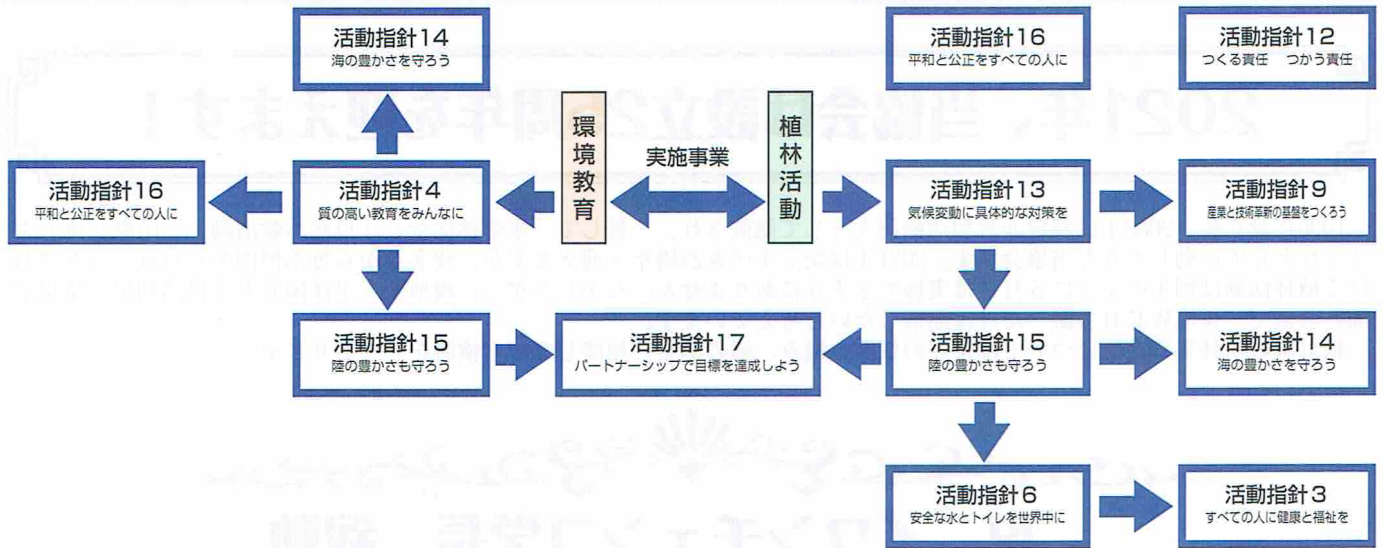
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



国連加盟国は、2015年9月25日の総会決議により、持続可能な開発目標（SDGs：SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS）を採択しました。

この決議のねらいは「あらゆる形態の貧困に終止符を打ち、不平等と闘い、気候変動に対処しながら、誰一人取り残されないようにするため、2030年までにこれら17の目標を達成すること」にあります。

NPO法人 むさしの・多摩・ハバロフスク協会とSDGs（持続可能な開発目標）



SDGsの活動方針	貢献している具体的な活動
3 すべての人に健康と福祉を	植林活動により、有害な化学物質・空気・水・土壌の汚染による被害を防ぎます。
4 質の高い教育をみんなに	時宜に応じたテーマ設定で、児童・青少年への環境教育を実施しています。
6 安全な水とトイレを世界中に	植林活動により、山・森林・湿地・川・帯水層・湖などの水関連の生態系を保護および復元することに役立っています。
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	ハバロフスク地方においてエコツーリズム等、木を切らないで利用する産業を開発します。
12 つくる責任 つかう責任	ロシアにおける木材の持続可能な管理と天然資源の効率的な使用および迂回消費も考察しています。（迂回消費とは、ロシアで生産された木材を中国で加工し、日本で消費していること）
13 気候変動に具体的な対策を	森林保全により自然災害に対する回復力と適応能力を強化しています。
14 海の豊かさを守ろう	オホーツク海に注ぐアムール河流域の森林保全により、北海道および三陸沖の漁場を豊かにしています。
15 陸の豊かさを守ろう	火災地修復のために、森林保全等の植林を行っています。
16 平和と公正をすべての人に	植林活動や環境教育で、ロシア北方先住少数民族への支援を行っています。
17 パートナーシップで目標を達成しよう	植林活動や環境教育でロシアの森林関係者との強いつながりができ、協力しています。

プリローダ 第71号

発行日 令和3年1月30日
 住所 東京都武蔵野市吉祥寺東町1-15-25
 E-mail mail@mtxa.org
 発行人 安藤 栄美
 広報委員 長村 康司、依田 和也、永田 秀樹、木崎 剛、落合 恒、内田 彰、内田 央、内田 周
 印刷 巧芸印刷株式会社

発行 NPO法人むさしの・多摩・ハバロフスク協会
 TEL/FAX 0422-23-5351
 URL https://mtxa.org/
 編集 田崎 桂子

編集後記

当協会顧問の秋山智英氏におかれましては、令和2年9月1日に94歳でご逝去されました。第15代林野庁長官を務められ、その後に当協会初代会長としてハバロフスクにおける植林事業の礎を築いて戴きました。謹んでご冥福をお祈りいたします。